久宝寺遺跡

現地公開資料

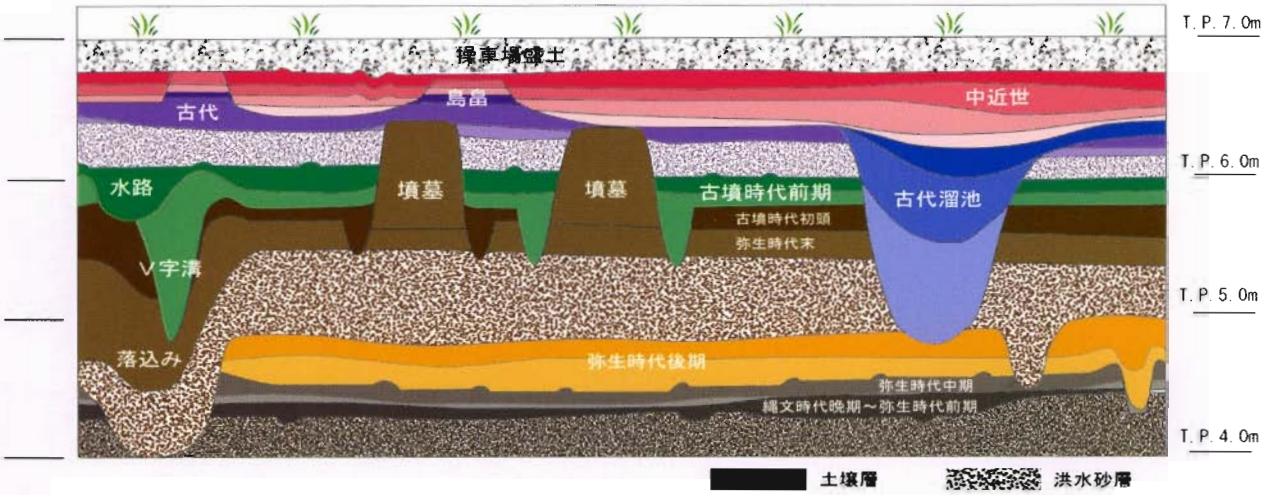
二〇〇三年　五月二十四日

財団法人　大阪府文化財センター

1. はじめに

(財)大阪府文化財センターは、平成13年度から、約22000㎡に及ぶ寝屋川流域下水道竜華水環境保全センター水処理施設建設に伴う調査に着手しています。これまでに、古墳時代初頭の墳墓群をはじめ、弥生時代から中世までの多くの遺構や遺物が発見され、貴重な成果が得られています。

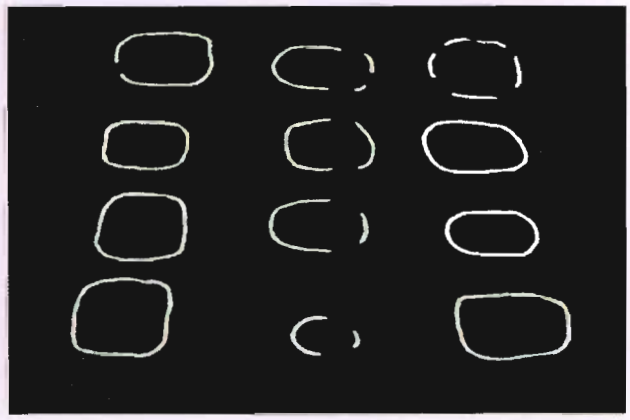
2. 久宝寺遺跡の層序



3. 古代の久宝寺遺跡

自然の侵食を利用して造られた溜池です。壁に粘土を貼るなどの工夫が見られます。この溜池からは墨書土器や獣骨などが出土しました。

溜池から出土した墨書土器です。「狛犬」「東」等の字や、絵がかかれています。出土状況から祭祀に使われたものと考えられます。



調査区の東端では、総柱の掘立柱建物が検出されました。柱穴から出土した土器より、奈良時代後半の建物と考えられます。

左の建物に関連する柱穴からは、礎石と考えられる石が出土しました。

4. 古墳時代前期の久宝寺遺跡

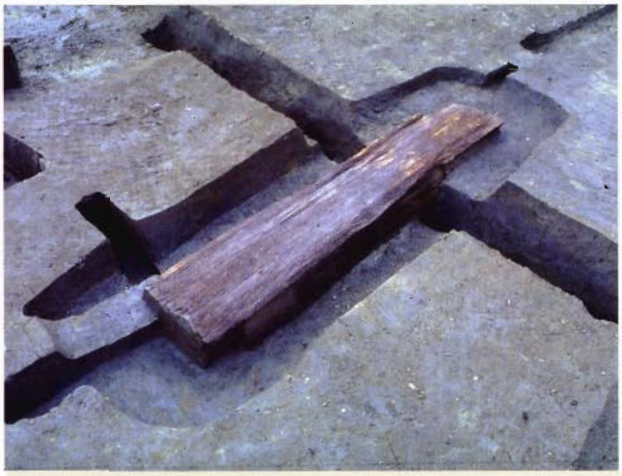
墳墓群廃絶後（古墳時代前期）の様子です。調査区南東から南西に向かって緩やかに低くなる地形で、その地形に沿って水路が流れ、調査区のほぼ全域で水田が営まれていました。古墳時代初頭頃の流路の中からは堰も出てきました。

古墳時代前期の水田跡です。緩やかな斜面を利用しており、網目状にめぐる畦がみつかりました。この当時、墳墓はまだ残っていたようです。

溝の堤の中からは高杯や鉢、甕などの土器がみつかりました。高杯のなかには朱が塗られているものもあり、祭祀に使われたと思われます。

調査区中央の流路では合掌形の構造をもつ堰がみつかりました。この堰は流路から北へのびる溝に水を流していました。

堰の部材に転用された盾です。頭部に丸みをもつタイプの木盾で、縦割れ防止のための紐列が見られ、孔の中には革紐も残っていました。



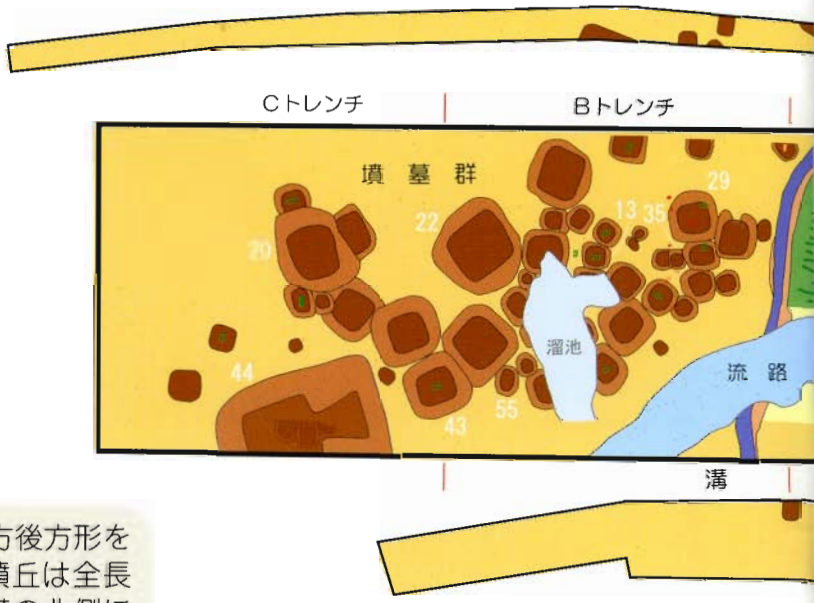
20号墳からは組合式木棺が出土しました。底板、両側板、仕切板、蓋板全てが完存していました。棺内から一体分の人骨が検出されました。

22号墳北側のたわみの中からは大量の土器が出土しました。土器のほかに皮袋形土製品や投石などの特殊な遺物もみつかりました。

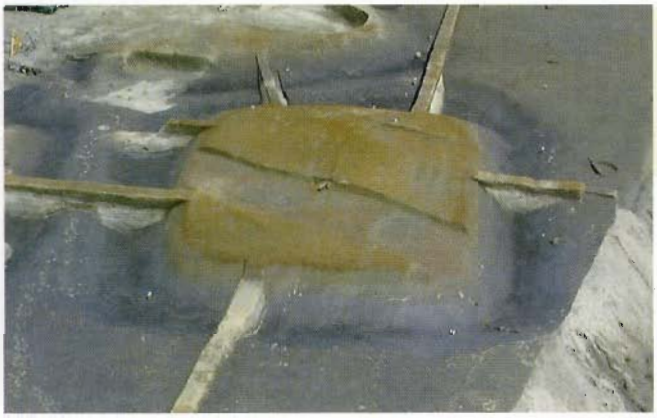
低墳丘である55号墳の周溝からは、大量の土器が出土しました。甕などの日常的な土器以外に、小型の器台・壷もみられます。

5. 古墳時代初頭の久宝寺遺跡

調査区周辺の古墳時代初頭の様子です。みつかった割竹形木棺のみつかった久宝寺1号墳周辺と、B・C また、Aトレンチでは、ほぼ同時期と思われる畑や水



44号墳は前方後方形をしています。墳丘は全長約30mで、周溝の北側には堤状に盛り土をしています。



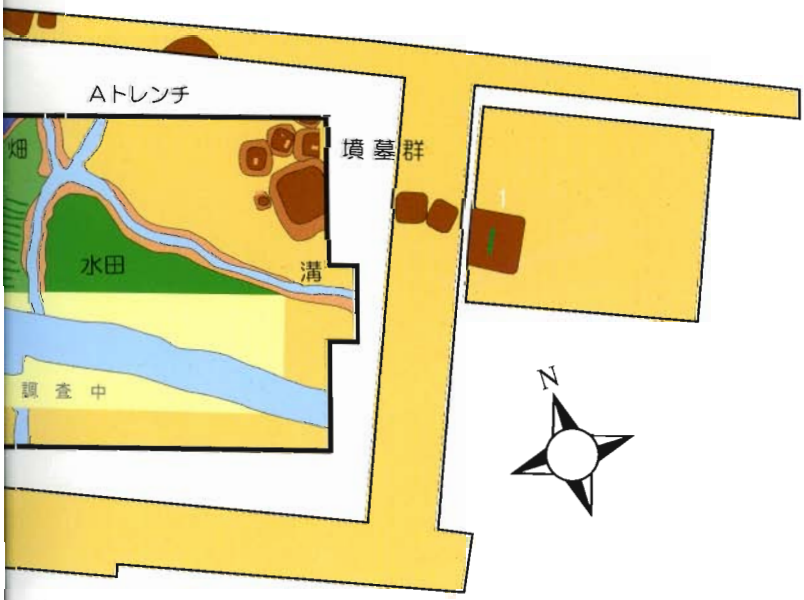
43号墳は44号墳の東側でみつかった方墳です。墳丘高が高いため、中近世の耕作土の直下から木棺がみつかりました。

区画溝をはさんだ東側の微高地では畑の畝間溝がみつかりました。低いところでは水田が営まれていたことがわかっています。

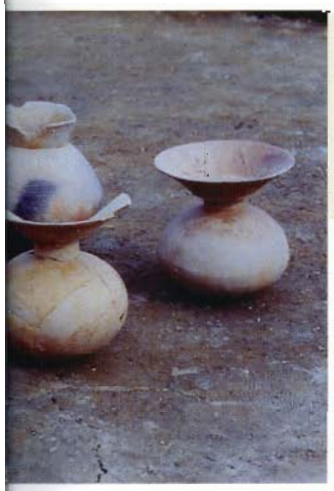
墳墓群と畑地の間にみつかった溝です。断面はV字状で、深さは約1mです。古墳時代前期には埋められており、区画溝と考えられます。

29号墳の主体部西側で検出した土器棺です。棺内からは管玉が1点みつかりました。子供が埋葬されたのでしょうか。

墳墓の総数は50基を越えます。墳墓群は、トレンチ付近の2群に分けられそうです。田跡もみつかりました。



35号墳の南側の土壙墓からは良好な状態の人骨がみつかりました。頭を西側に向け、両手・両足を折り曲げた状態で埋葬されていました。



22号墳の周溝から出土した土器です。これらの土器は底に孔があけられており、墳墓に供えられた土器が周溝に転落したものと考えられます。

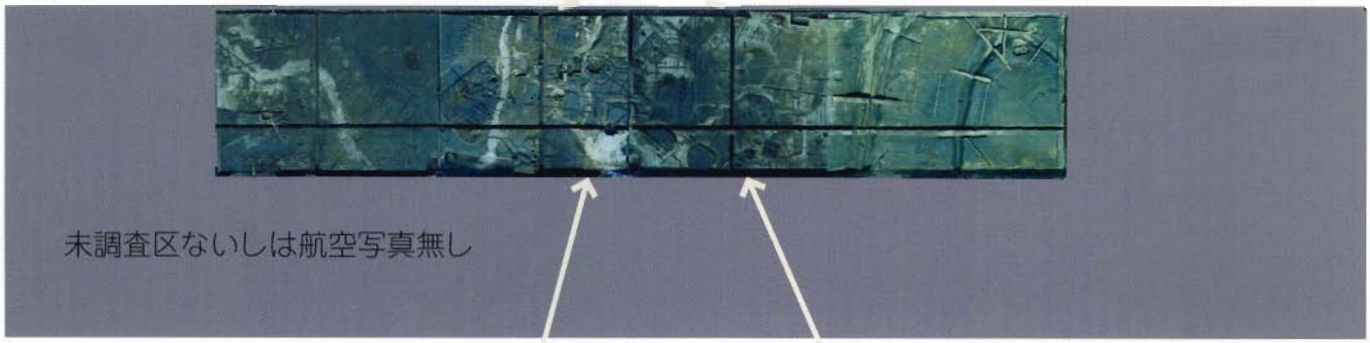
13号墳では組合式木棺がみつかりました。木棺からはほぼ全身の人骨がみつかりました。

6. 弥生時代末の久宝寺遺跡

古墳時代初頭の墳墓群の下からは、弥生時代末期頃の耕作痕と住居跡がみつかりました。墳墓群が形成される以前は、居住域として利用された後、耕作地へと変化していった様子がわかります。墳墓の築造や後の耕作により地面が削平されたところでは遺構がみつかりませんでした。

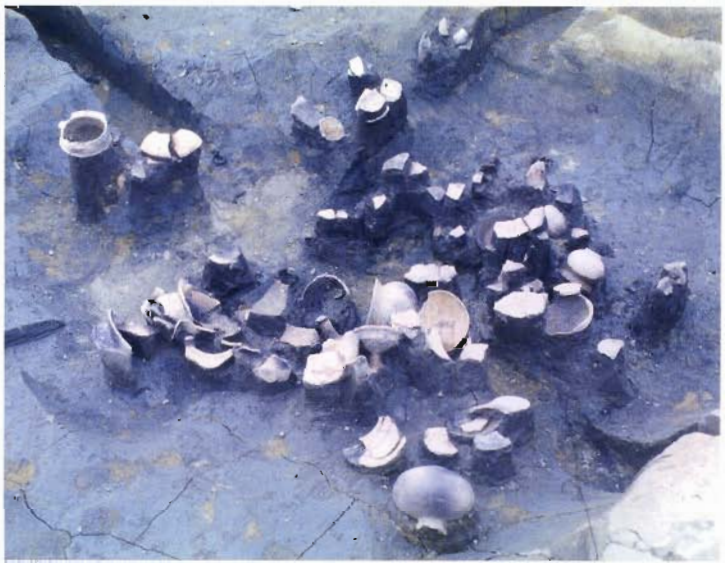
住居跡は、微高地上を中心に計５棟がみつかりました。切合いのみられるものもあることから、ある程度の期間、定住していたと考えられます。

一辺約６mのほぼ正方形の竪穴住居です。炉穴と４つの柱穴がみつかりました。壁はほぼ垂直に立ち上がります。



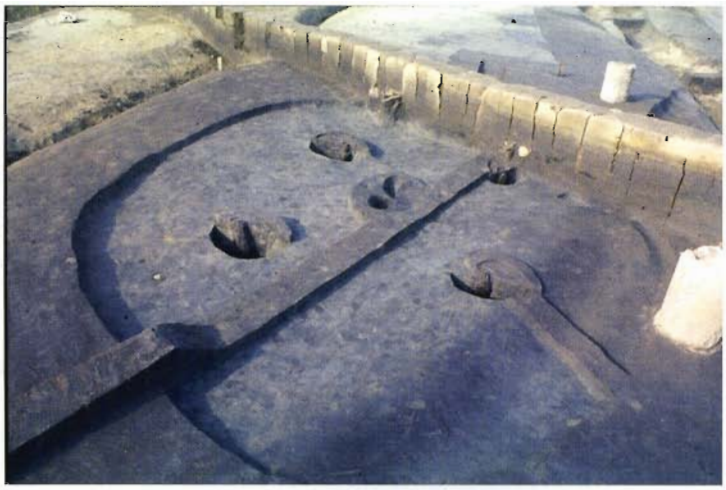
住居跡の近くからみつかった甕です。１つの土器を縦半分に割り、つなげた状態で地面に置いたようです。何かを覆っていたものでしょうか。

方形の土坑からは大量の土器が出土しました。なかには完全な形の土器もありました。また、大量の炭化米もみつかりました。



7. 弥生時代中期～後期の久宝寺遺跡

弥生時代中期から後期の水田が調査区のほぼ全域でみつかりました。東側から西側にかけて低くなる地形を利用しながら水田が営まれていました。また、水田開発に密接に関わったと考えられる、東側の高まりの溝は非常に長期間にわたって使用されていたことがわかっています。



東側の高まりでは円形の竪穴住居がみつかりました。柱根の残りが非常によく、多数の土器が床面に置かれた状態で出土しました。

左の竪穴住居から出土した土器群です。煮炊きをした甕など日常的な土器だけでなく、朱で紋様をつけた高杯など、祭祀的な土器も含まれていました。

高まりの上でみつかった石器群とその横の溝から出土した土偶です。打製石剣や磨製石剣が折れた状態でかたまって出土しました。

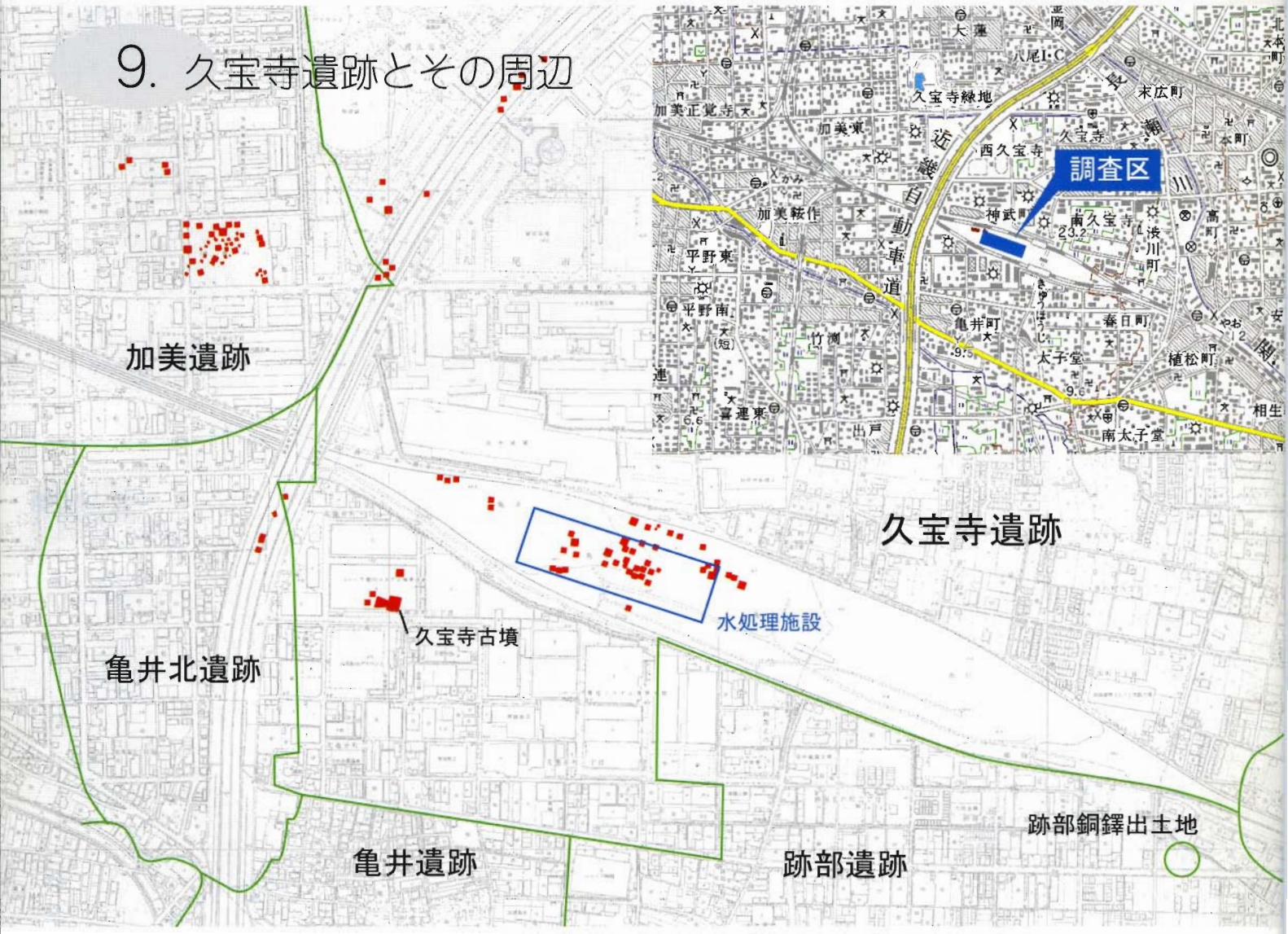
高まりの南側では井戸が一基確認されました。井戸の底からは釣瓶として使用した壷２点がほぼ完全な形で出土しています。

8. 弥生時代前期の久宝寺遺跡

縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての井戸や土坑などの、集落にともなうと思われる多数の遺構がみつかりました。

弥生前期の井戸の中からは鍬や鋤が出土しました。鍬は非常に残りがよく、舟形突起をもつ狭鍬で、古い様相をもつものです。

9. 久宝寺遺跡とその周辺



久宝寺遺跡現地公開資料　発　行　(財)大阪府文化財センター
〒590-0105 堺市竹城台3丁21番4号 TEL 072-299-8791
印　刷　あさひ高速印刷株式会社　発行日　2003年5月24日